

#19 おうちごはんを楽しむ②

楽しいダイニング空間のレシピ

ふだんのおうちごはんだけでなく、子どもたちのバースディパーティーやお客様のおもてなしなど、おいしさが中心にあると楽しさも格別ですね。

その楽しさを続けるためにも、DK空間は配膳やお片づけをスイスイとこなせるように作っておきたいものです。

ですがダイニングテーブルにはパソコンや携帯、子どもたちのお勉強グッズなど、食事以外のアイテムが集中しがちです。そこで積水ハウスの食空間研究を基に、わが家のダイニング空間をいつもスッキリと保ち、より楽しくするヒケツを特集しました。

*「食の暮らし生活者アンケート調査」(2011年/N=416/積水ハウス 総合住宅研究所)



そのダイニング、遠回りしていませんか？

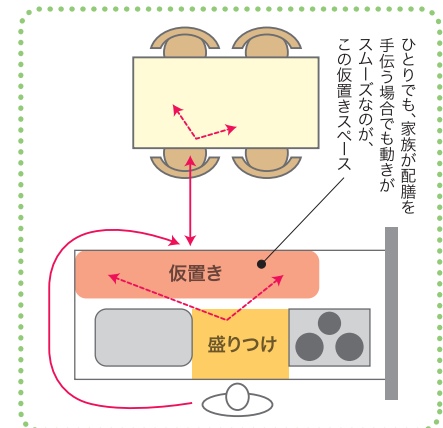
家族みんなでお料理して、配膳もワイワイ言いながら！というシーンが毎日続けばいいのですが、平日はほとんどひとりで作って配膳する、そんな方も多いのではないのでしょうか。お皿に盛りつけて運んで、行ったり来たり。食後の後片づけもバタバタしがちで会話も途切れがち……というご家庭は、もしかしたらキッチンとダイニングテーブルの配置に原因があるかもしれません。

実は、積水ハウスが配膳動作実験(*)を行なったところ、4人分の夕食を配膳する場合、ダイニングテーブルをキッチンから少し離して配置してある「平行配置」タイプの空間が最もラクに動けることがわかりました。

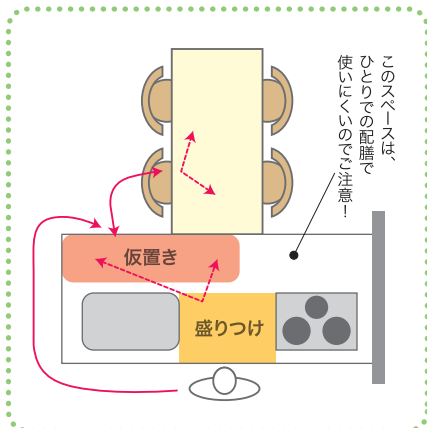
ただし、ワークトップにお料理の仮置きスペースがしっかりと取ってあったり、家族が常にお料理や配膳に参加するなどのスタイルによっても効率は異なってきます。

わが家が最も心地よく過ごせるDK空間のレイアウトはどれか、見つけてみましょう。

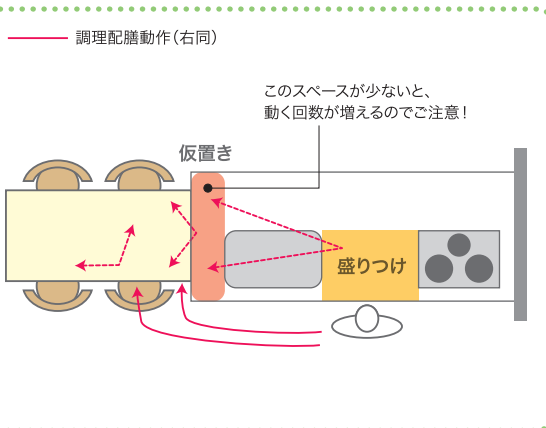
*総合住宅研究所による「食空間研究調査」より
(2013年9月実施)



<平行配置> 盛りつけたお皿を並べる仮置きスペースが広く確保できるので、テーブル側に回り込むだけで配膳できます。ひとりでも心地よく動けるレイアウト。



<T字配置> お皿の仮置きスペースは<平行配置>の約半分。テーブル側に複数回、回り込むことになり、往復する回数が増えます。



<横並び配置> テーブルに回り込む必要がないので、動線は最も短くて済みます。ただ、仮置きスペースがあまり取れないワークトップであれば、往復する回数が増えます。



- ①配膳まで最も作業効率の良いのが、この<平行配置>のレイアウト。このキッチンはシンクカウンター前部だけでなく、横にもお皿の仮置きスペースがあるので、盛りつけもしやすいです。(GM東海岸南)
- ②シンクの横にお皿の仮置きスペースがしっかりとあるため、配膳もしやすい<横並び配置>。キッチン内側が丸見えになるので、分別ゴミ箱やタオルなどを隠せる収納をプラスしておけば安心です。(GM横浜十日市場)
- ③空間がコンパクトに納まる<T字配置>。写真のように手元隠しの袖壁を立ち上げると、落ち着き感のあるダイニング空間となります。(GM高宮の邸)



パソコンに興味、お勉強…
ダイニングは
“家族室”でもある？

ダイニングテーブルと椅子は食事以外の行為…勉強やパソコン、趣味などもしやすいため、家族のいろんな物が集合しがちですね。日常使いの食器はキッチンに集め、ダイニング側には来客用の食器、そして家族がふだんそこで使う物を整理収納できるスペースもあらかじめ用意しておきましょう。

ダイニングテーブルの上がいっつもスッキリと片づいていればこそ、お料理の腕も奮いやすく、食事の時間の楽しさも高まります。そもそも、子どもたちがダイニングで勉強したがるのは、やはり家族のそばが落ち着くから



ダイニングに面した収納は、キッチンの前面を利用したものが、雑誌や絵本もインテリアの一部として収納することができます。



です。お料理しながら言葉も交わせるのでお母さんも安心ですが、実はダイニング空間用のテーブルと椅子の高さ、照明の明るさは学習には適していません。

たとえば、リビング・ダイニングの近くに学習にふさわしい椅子やデスクスタンドを用意して、姿勢や視力などへの配慮をあげましょう。

ダイニングのテーブルと椅子は一般的に大人の体格に合わせているので、子どもが勉強するにはテーブルと椅子の間隔が広すぎます。育ち盛りの時期ですから、姿勢に影響が出るのが心配ですね。また、食事や団らんに必要な明るさは150~500ルクスで、学習に必要なのは500~1000ルクスとされています(*)。照明は集中力にもかかわっていますから、一度チェックしてみましょう。
*「住宅の照度基準(JIS Z 9110)」



DK空間のそばに設けた学習コーナー。安心して勉強に集中することができます。子どもたちが自分の部屋で勉強する年頃になれば、家事管理のためのパソコンや趣味のコーナーにも。



右／書斎コーナー。キッチンと動線が繋がっているため、子どもたちの勉強スペースに。子どもたちの様子を見守りながら、キッチン作業をすることができます。(GM丸の内スタイル)
上／テレビの向こう側にあるのが、右の写真の書斎コーナー。キッチンやリビングで過ごす家族の気配を感じやすい空間です。



welcome dining



お客様のおもてなしも、食べるのが中心になりやすいですね。もてなす側も存分に楽しんで一緒に乾杯できるように、キッチンとダイニング、リビングのつながり方にこだわってみましょう。



キッチンとLDが美しくつながった、一体空間。窓の外の風景も、おもてなしに。(GM宝塚清荒神)



右／ダイニング、リビング、バルコニーと、思い思いに過ごせる豊かな空間。子どもたちが寝静まったら、大人の集いを。(GM東海岸南)
上／バルコニーにもテーブルを設けることで、食べる場所が複数に。食事の後も会話が弾みやすく、くつろぎが続きます。(GM青葉のまち)



上／家族の距離感が縮まる、丸テーブル。少し詰めれば、人数の融通がききやすいのもメリットです。(GM西大畑)
左／キッチンもDKも独立性の高いプラン。大切なお客様のおもてなしも、悠々とできます。(GM南山ヴァンクール)

